

「ウランと環境研究懇話会」としての認識のまとめ（案）

平成 29 年 12 月
ウランと環境研究懇話会
委員長 鈴木 和彦

「ウランと環境研究懇話会」（以下、「懇話会」という。）では、原子力機構人形峠環境技術センターが昨年 12 月に公表した「ウランと環境研究プラットフォーム」構想について、研究開発活動の効率化・活性化、研究開発の信頼性・透明性の確保及び研究活動を通じた地域共生、研究活動の安全・安心等の視点から、これまで 5 回にわたり、意見や提言を行ってきた。

今般、懇話会におけるこれまでの意見や提言を踏まえ、「ウランと環境研究プラットフォーム」構想に関する懇話会としての認識を取りまとめた。

懇話会としての認識

原子力機構人形峠環境技術センターは、平成 13 年 3 月のウラン濃縮原型プラントの運転終了をもって、核燃料サイクルのフロントエンドの技術開発を終了し、現在、設備等の解体等を行なっている。

今後も、設備等の解体、鉱山施設の閉山措置、減損ウランの安定的保管管理等の対策及び放射性廃棄物の処理・処分を、人形峠環境技術センターにおいて、最後まで責任を持って行うために、さまざまな研究や技術開発を長期間に渡って実施することが必要であるとしており、懇話会において、以下の事項について認識した。

懇話会で出された主な意見・提言を踏まえると、立地地域等と連携したうえで、施設の安全対策を講じてリスクの低減や環境保全へ取り組むといった、原子力機構人形峠環境技術センターに、将来にわたって与えられた役割を着実かつ安全に果たしてもらうためには、「ウランと環境研究プラットフォーム」構想に示された研究開発を着実に進めることは適切である。

1. 原子力機構人形峠環境技術センターが解決すべき安全性を高めるための課題は、鉱山施設の閉山措置、減損ウランの安定的保管管理等の対策及び放射性廃棄物の処理・処分技術の開発であると認識した。これらの課題解決への取り組みは、懇話会の議論を踏まえ、安全が担保されることを大前提に、原子力機構人形峠環境技術セ

ンターにおいて最後まで責任を持って「ウランと環境研究プラットフォーム」構想の下で実施することが必要である。

2. これらの課題解決へ取り組むことは、人形峠におけるリスクが低減されるとともに、地域住民の方の安全・安心につながるものである。問題解決への取り組みは、地域住民の方等の理解を得ながら着実に進めることが望ましい。さらに、この取り組みが立地地域の活性化及び鏡野町の発展につながる取り組みを期待する。
3. 原子力機構人形峠環境技術センターが、課題解決への取り組みを行う際には、従前の反省点を踏まえ、責任ある行動をとると共に、徹底した情報公開への積極的な取り組みが重要である。よって、地域住民等との対話を通じて、原子力機構人形峠環境技術センターが地域住民に信頼される組織であり続けることが必要である。なお、その際は、地域住民の立場に立った分かりやすい説明や資料作りを心がけるよう要請する。
4. これらを踏まえ、原子力機構人形峠環境技術センターが将来にわたって果たすべき役割を着実かつ安全に履行するために、「ウランと環境研究プラットフォーム」構想に基づいて、廃止措置を着実に進めるために必要なウランと環境をテーマとした研究開発（環境研究・ウラン廃棄物工学研究）及び鉱山施設の閉山措置や減損ウランの安定化等の対策のための取り組みを着実に進めることは適切である。
なお、ウラン廃棄物工学研究の実施にあたっては、同センター内で保管されている放射性廃棄物のみを対象とし、周辺環境への影響がないよう十分な対策を行うことを要請する。
5. 原子力機構人形峠環境技術センターは、これらのことを認識するとともに、「ウランと環境研究プラットフォーム」構想に示された「環境研究」、「ウラン廃棄物工学研究」を新たに実施するにあたっては、地質環境等の地域の特性や懇話会での意見や提言を踏まえ、より具体的な研究計画を作成し、その計画や得られた成果について有識者による評価を受け、その結果を積極的に公表することは言うに及ばず、地域住民の方の安心感の醸成を図るために、これらの計画や成果について丁寧な説明を行うよう要請する。

以上

資料1 「ウランと環境研究懇話会」委員会名簿

氏名	役職等	備考
有本 昌充	鏡野町 副町長	
石尾 禎佑	農業 原子力関係有識者	
大江 俊昭	東海大学 工学部原子力工学科 教授	
小椋 潤二	鏡野町教育委員	
小椋 雅雄	上齋原地区区長会 会長	
小椋 晶志	鏡野町議会 議員	
片田 京子	鏡野町商工会女性部 部長	
北山 政士	鏡野町区長会 会長	
小林 英将	鏡野町 まちづくり課長	
鈴木 和彦	岡山大学大学院 自然科学研究科 教授	委員長
中田 秀哉	山陽新聞社 津山支社長	平成29年9月から
塚田 祥文	福島大学 環境放射能研究所副所長 教授	委員長代理
友末 誠夫	津山高専技術交流プラザ会長	
橋本 成仁	岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授	
廣岡 尚弥	山陽新聞社 津山支社長	平成29年8月まで
堀家 律子	上齋原地区婦人会 会長	
松坂 邦夫	上齋原財産区 議長	
本山 紘司	鏡野町議会 副議長	

(50音順 敬称略)

※ 委員長及び委員長代理については、第1回懇話会にて委員の互選により決定しました。

(オブザーバー)	
	岡山県 県民生活部 中山間・地域振興課
	鳥取県 三朝町
	文部科学省 研究開発局 原子力課

資料2 「ウランと環境研究懇話会」開催状況

	日 時	場 所	参加者数
第1回	平成29年6月6日(火) 9:00~12:00	鏡野町中央公民館 大会議室	16名 (1名欠席)
第2回※	平成29年8月2日(水) 12:35~14:45	人形峠環境技術センター 教育棟会議室	14名 (3名欠席)
第3回	平成29年10月10日(火) 13:25~16:05	鏡野町ペスタロッヂ館 夢ホール	14名 (3名欠席)
第4回	平成29年11月14日(火) 9:30~12:00	鏡野町ペスタロッヂ館 夢ホール	15名 (2名欠席)
第5回	平成29年12月11日(月) 13:30~16:00(予定)	鏡野町役場 危機管理センター会議室	名

※ 第2回懇話会の開催に先立って、原子力機構人形峠環境技術センター施設の視察を行いました。